

十全看護専門学校

令和四年度 一般入学試験（二次）

国語総合

令和四年一月二十四日実施

☆注意 解答はすべて解答用紙に記すこと。誤字・略字・崩し字は認めない。きちんと丁寧に書こう。

一 次の文章を読み、後の問いに答えよ。（設問の都合上、一部表記を変更・省略している。）

病人になってはじめて、病人の気持ちがわかる――と、よくいわれます。私は若いころにア結核性の病気をし、一年間イリようようをしました。当時はひどいウざせつ感を味わったのですが、①そのことが医師になってからどれだけ役に立ったかわかりません。

胃と腸のがんを人間ドックで早期発見し、エくりかえし手術を受けたオかんじやさんがいました。開腹手術の翌日、カ病床に行くと「先生、昨夜は背中や腰が痛くて眠れませんでした」と言います。ナースにそのことを告げると、「大きな手術をしたんだから、痛いの当たり前です」と言われてしまった、と（A ）をついておられました。

②「痛いから何とかしてほしい」と頼んだのに、「痛むのは当たり前です」と言うのはケアではありません。私が上着を脱いでかんじやさんの腰の下にキうでを入れ、「こうしたらどうですか？」とク訓ねると、かんじやさんは「楽ですねえ、手を入れるだけでも」と微笑みました。

私はいつまでもうでを入れているわけにいかず、「もしかしたら、ベッドに固いマットをケしいたらいいかもしれないね」と言い、ナースにマットを換えさせ、「少し大きな枕を腰にあててみてください」と頼みました。

翌日、私がかんじやさんをコみうと、「先生、楽になりましたよ」と喜んでいました。これは、私が痛みを体験したからわかるのです。かつて私がトイレに立つこともできず八カ月間も安静にさせられていたとき、背中の痛みを訴えると母がよく手を私の腰の下に入れてくれました。（B ）、一時間ほど手を入れっぱなしにしてくれたのです。そういう母の愛によって腰の痛みがサ癒されたことを思い出し、私はかんじやさんに同じことをするようにになりました。

以前、聖路加看護大学の学生オリエンテーションを行ったあとで、学生にアンケートを出したことがあります。今までにどこかが痛くて、治りようを受けたことのある人は「ある」と書いてくださいという質問に、「ある」と答えたのは全体の一割しかいませんでした。

かんじやさんの痛みと常に向き合っているながら、自分で痛みを実際に経験したことのある医師や医りよう従事者は、実はそれほど多くはありません。（C ）、「痛みでは死にませんよ」などと簡単に言ってしまうのです。

ナイチンゲールは彼女の名著「看護覚え書き」のなかで、若い看護学生に向けて、こんなふうに言っています。「経験したことのないことまでも感知できる素質がなければ、看護婦にならないほうがいいでしょう。」

バラの花の匂いをかいだことのない人は、その説明をいくらされても、本当の匂いはわかりません。経験しないことはなかなかわからないものですが、医りように従事する者にとって大切なことは、③経験がなくてもそれを理解する感性がなければだめだと、ナイチンゲールは言っているのです。

かんじやさんの悩み、不安、痛みを理解するには、単なる同情（シンパシー sympathy）では十分ではありません。④大切なのはかんじやさんとのコミュニケーションを伴う共感（エンパシー empathy）です。

私はかんじやさんの不安やシこどく感が痛みを大きくし、病気の順調な回復を遅らせてしまう例を数多く見てきました。（D ）、医師や医りよう従事者に理解されていると感じることができたかんじやさんは、病気のスつらさが軽減するばかりか、病気の回復も早くなるのです。（中略）

私の場合は、自分が病気をして、「病苦」を体験したことが、かんじやの「苦」をわかろうとするときに役立っています。ですが、それと同時に、りようように中にたくさんさんの本を読んだり、音楽を聴いたりしたことも、おおいに役立ちました。

だから、私は医学生や看護学生に「できるだけ本をたくさん読みなさい。それも医学書ではなく、小説や詩やノンフィクションを」と勧めます。

こうした本は、人間の生きていく苦しみや病気の苦しみのような「セ四苦八苦」を取り上げています。それを書いているのは、小説家や宗教家、詩人などの感受性の鋭い人たちですから、著作を通じてさまざまな「経験」をし、かんじやさんの「苦」を感知する感性をソみがくことができると思うのです。

問一 傍線部ア～ソの漢字は読みを、かなは漢字を正しく記せ。また、セ「四苦八苦」に関連して、死別など愛する人と別れる苦しみを何と言うか、解答欄の空欄に当てはまる漢字を記して四字熟語を完成せよ。

ア 結核・イリようよう・ウざせつ・エくりかえし・オかんじや・カ病床・キうで・ク訊ねる・ケしいたら・
コみまう・サ癒された・シこどく・スつらさ・セ四苦八苦・愛 苦・ソみがく

問二 傍線部①「そのことが医師になってからどれだけ役に立ったかわかりません」とあるが、何が、医師になってからどう役に立ったのか、次の説明文の空欄に当てはまる語を記せ。1 3は①と同じ段落中の語句を記せ。2は後の文章から抜き出しても自分で考えてもよい。

若いころ（ 1 （ 2 ） を体験したことで、医師になってからよく（ 3 ）
ようになった。

問三 空欄Aに当てはまる語句を次から選び、その記号と読みを記せ。

Aへ ア愚痴・イ溜息・ウ青息・エ不平へ

問四 傍線部②「痛いから何とかしてほしい」と頼んだのに、「痛むのは当たり前です」と言うのはケアではないと筆者が言うのはなぜか、

- 1 筆者がいいケアとはどういうものでどういう効果があると考えているか、後の文中から抜き出し記せ。
- 2 この看護師の言動のどういう点がよくないのか、考えて記せ。
- 3 また、そういう言動を取った理由について、何点か考えられることを（文章から考えられる理由と、それ以外にもないか自分で考えて）それぞれ簡潔にまとめて記せ。

問五 空欄B C Dにそれぞれ当てはまる語句を次から選んで記せ。

B C Dへ 逆に・しかも・つまり・だから・例えば へ

問六 傍線部③「経験がなくてもそれを理解する感性がなければだめだ」とあるが、

- 1 「それ」とはこの場合何のことか、後の文中から語句を抜き出し記せ。（自分の言葉による説明を加えてよい）
- 2 「経験がなくてもそれを理解する感性」を育てるためにはどうしたらよいと筆者は言っているか、後の文中から考えて記せ。（自分の言葉による説明を加えてよい）

問七 傍線部④「大切なのはかんじやさんとのコミュニケーションを伴う共感（エンパシーempathy）」とあるが、

- 1 「コミュニケーションを伴う共感エンパシー」とはどういうものか。問題文前半に書かれている筆者のかんじやへの接し方から、具体例を挙げ、説明せよ。
- 2 社会世界の多様化が進む今日「エンパシー」の大切さがよく言われるが、「エンパシー」の基本・大事なことは何だと思うか、自分の考えを簡潔に記せ。

問八 看護師を目指す皆は今後看護学校で、日々進む医療看護の専門知識・技術を学び習得し、看護の心、コミュニ

ケーション力・共感力・現場での判断力等も育てていくことになる。

自分がどういう看護師になりたいか、特に

どういう力をつけたいか、気をつけたいこと、予想される困難とその解決法など、今の思いを四〇〇字以内で記せ。タイトルは不要。段落は三段落まで。原稿用紙の使い方を守る。

二 結核について次の説明文の空欄に当てはまる語句を後から選んで記号を記せ。

結核は、戦後ストレプトマイシンなどの薬が普及するまでは、長く日本人の死因の第一位を占め、死病と恐れられてきた。長期の安静りようようを必要とすることも多く、日本では（1 ）、ドイツでは（2 ）などのりようよう文学の傑作が生まれた。（3 ）（4 ）など優れた才能を持ちながら結核・結核性の病気により早世した文学者も多い。

- 1 a 「愛と死」（武者小路実篤） b 「風立ちぬ」（堀辰雄） c 「黒い雨」（井伏鱒二）
- 2 d 「ペスト」（カミュ） e 「若きウェルテルの悩み」（ゲーテ） f 「魔の山」（トーマス・マン）
- 3 4 g 石川啄木（「一握の砂」） h 中島敦（「山月記」） i 芥川龍之介（「河童」） j 正岡子規（「仰臥漫録」）

受験番号(

（氏名）

—

[illegible]

1
2
3
4

解答

問一 アけっかく イ療養 ウ挫折 エ繰り返し オ患者 カびようしよう キ腕 クたずねる ケ敷いたら コ見舞う サいやさ
れた シ孤独 ス辛さ セしくはつく 愛別離 苦 ソ磨く

問二 若いころ（1結核性の病気で一年間療養をし）、（2病苦・病気の痛み苦しみ）を体験したことで、医師になってからよく（3病
人の気持ちがわかる）ようになった。

問三 A イ ためいき

問四 1 医師や医療従事者に痛みや不安が理解されていると感じることができた患者さんは、病気の辛さが軽減するばかりか、病氣
の回復も早くなる。
2 患者の痛みの訴えを聞いてもその痛みを理解しようとせず、しかたない、我慢しろと放置し、患者の孤
独や不安を増大し、回復を遅らせている。
3 患者の痛みを理解する体験の不足。共感しようとする感性の不足。現場の忙しさ・人手不足による余裕
のなさ。

問五 B しかも C だから D 逆に

問六 1 病気の苦しみ・痛み・不安・孤独・絶望
2 小説や詩やノンフィクションを読んで自分の知らない体験をし、患者の病苦を感知する感性を磨く。

問七 1 患者に親しく声を掛け、痛みの訴えには自分の手を触れ、痛みを楽にするための手に代わる枕などの工
夫をし、さらにそのままにせず様子を見に行き、効果を確かめる。患者に安心感信頼感を与える。
2 相手の立場に立つて考えることができる思考の柔軟性。相手の考えや感情を理解できる総合的な理解力。
同情に流されない判断力・意志力。「相手の靴を履いて歩いてみる」

作文

二 1 b 2 f 3 g 4 j

十全看護専門学校

令和四年度 一般入学試験（二次）

国語総合

令和四年三月三日実施

次の文章は、朝日新聞 2021年11月21日〈日〉のNO1767「いま子どもたちは」医の心、育むの記事である。味読して設問に答えよ。

医の道、心もケアしたい

10月下旬、午前8時半をまわると、紫色の①キンチャク袋を手にした高校2年生たちが、②黄金色の③阿弥陀如来像を置く講堂に集まってきた。福岡市中央区にある④筑紫女学園中学・高校の朝の⑤勤行^⑤おつとめだ。

「⑥シセイを⑦タダしてください。」

仏教委員長の赤司瑞祈（あかしみずき）さん（17）の⑧凜とした声を⑨アイズに講堂が静まりかえった。

「⑩モクソウ」

香炉から広がる柔らかな香りに包まれ、およそ420人の生徒たちの表情が穏やかになっていく。澄んだ鐘の音とともに、「宗教担当の平孔龍（たいらこうりゅう）先生（44）のお経が講堂に響きわたる。

我建超世願がごんちようせがん 必至無上道ひつしむじようどう 斯願不満足しがんふまんぞく 誓不成正覚せいふじようしようかく

講堂は厳かな空間となり、生徒たちはキンチャク袋から取り出した聖典のお経を黙読する。学校は⑪浄土真宗の教えに基づく人間教育をア建学の精神とする。生徒たちは⑫礼拝や仏教の授業を通して、他者をいたわる慈悲の心や命の大切さを学ぶ。そのイ仏教の視座を身につけ、医療の道をめざす生徒が学ぶ「医進コース」が誕生したのは2020年春のことだった。松尾圭子校長（64）は、訪問した大学の医学部の先生の言葉が忘れられない。

「医者は日々、精神が不安になる患者と接する仕事。そういう気持ちをくみ取って話ができる医者じゃないと困る」さらに、力説された。「受験の成績がよくて合格しても、患者に向き合えるだろうかと心配になる学生もいる」と。

学校には、医学や看護学といった学部がある大学に進学したい生徒が多く在籍する。松尾校長は「医学部をはじめ医療系の難関学部への合格可能な学力のある生徒に、進路先を偏差値基準で薦める指導はするべきではない。医の道に進んで何をしたいのか、受験に臨む前から明確にしておくことが大事なのではないか」と思いを深めた。

ウ人の痛みがわかる仏教の教えは、医の道に進む生徒たちの学びの⑬ソジにもつながるのではないかと考え、志を同じくする生徒が集まるコースを立ち上げた。昨春、一期生15人が高校に入学した。仏教委員長の赤司さんもそのひとりだ。「せっかく仏教の学校に入学したのだから」と、入学当時から⑭ケンキンの呼びかけや⑮シキテンの準備といった活動に励む仏教委員会への参加を決めていた。委員長となった今秋、医療者が時に直面する死に向き合う姿を学ぶ機会を得た。

いのちを考えるー。8、9月、佐賀県基山町の⑯住職山内智宏さん（55）を招いた集中講義があった。山内さんは医療や⑰カイゴの現場で、緩和ケア⑱病棟のボランティアを務める。25年前からは、久留米大学病院（福岡県久留米市）の小児科血液グループ親の会が主催する「星まつり」に参加する。星まつりは、医療者とともに毎年開かれる、がんで亡くなった子どもたちの⑲ツイトウカイだ。

赤司さんは幼少時から片頭痛や⑳嘔吐、まぶたのかゆみに悩み、症状が治まりつつある現在も、小児病院に通う。そこで幼い患者と①ソウグウする赤司さんは、治療がかなわず、命を失う子どもたちに触れる講義内容に「②怖さ」を感じた。一方で死で終わらないつながりがあることも知った。

山内さんは、生物学的生命と「エ物語られるいのち」があると説いた。亡くなった後も、医療者らが集い、その子たちを思い出し、語り合い物語られる。「人としての命は終わっているけれども、誰かの中に生きている。そして支

えとなり、生きる方法を教える大切な存在となる。」、山内さんはそう語り、星まつりに参加する母親の言葉を紹介した。「病気を抱えても自分の命を生き切った。私も精いっぱい生きようと思う」

医師は治療で病気を治す立場だが、患者がその人らしい人生を過ごすために(3)バンソウすることもある。講義が進むにつれ、赤司さんは体得した気持ちになった。講義前、「なぜ、お坊さんが医療現場の話をするのだろう」と思っていた赤司さんの疑問は解けた。「医療も仏教も、命と向き合っているんだ」

「治してあげたかったけど、治せないこともある。そのとき、(4)ザセツ感や(5)ハイボク感ではなく、患者や家族が、精いっぱい生きた、精いっぱいお世話かできた、という思いになってもらえる医療者になってほしい」。山内さんのメッセージは、緩和ケアや緩和病棟に暗いイメージを重ねて聞いていた医進コースの生徒たちの心に、オ学びの滴を与えた。講義の感想文にはそれぞれの思いがつづられた。

斎野美緒さん(16)は、医療者が(6)トウビョウや死別後も家族を支えたことによる「カ笑顔のお葬式」の話に(7)トクシンした。「家族や医療チームが互いに思いやることができたから、病気の本人も含め、(8)タズサワった人全員が(9)ナツトクのいく(10)サイゴを迎えられたのではないかと思った」。

看護師経験がある母の影響を受け、医の道をめざす大久保有里さん(17)の感想文は、人の死をただ悲しいととらえない仏教の考え方に思いを寄せ、こう結んだ。

「治療をするだけでなく、患者さんの心が少しでも穏やかになれるような、心のケアも丁寧にしてあげたい」

(前田伸也)



学校には、医学や看護学といった学部がある大学に進学したい生徒が多く在籍する。

松尾校長は「医学部をはじめ医療系の難関学部への合格可能な学力のある生徒に、進路先を偏差値

●朝の勤行。仏教委員長の赤司さん(中央は、手を合わせ、講堂中央の阿弥陀如来像を見つめる)
||福岡市中央区の筑紫女学園中学・高校●山内住職の「いのちを考える」集中講義||同校提供

